

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1070900319
法人名	株式会社栄光製作所
事業所名	グループホーム虹の家
所在地	藤岡市岡之郷1166-1 (電話) 0274-40-3478

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年5月30日

【情報提供票より】(20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り		
	階建ての	階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	350円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	380 円	おやつ 70 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 72 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松岡内科医院、公立藤岡総合病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家族との絆を大切に考え、入居者と家族のふれあいの場となるよう、また、家族同士の交流の機会として、積極的に家族会を開催している。家族会の開催には、日程を合わせて誕生会などの催しやエレクトーンの演奏会などを行っている。また、参加者全員で花壇の手入れや菜園管理を行ったり、季節ごとの行事や日帰り旅行を楽しんだり、地域のお祭りに参加している。毎月発行する「虹の家新聞」は、自治会を通して回覧し、ホームの活動状況を理解して頂けるよう働きかけている。また、地域の人たちを対象にした介護教室を開催したり、地域の筋トレ教室に入居者と共に参加するなど地域の人たちとの交流促進に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を職員会議で話し合い、近隣の人達も参加した消防署の指導による昼間と夜間を想定した年2回の避難・消火・通報訓練や救急救命の講習会を開催したり、週3回の入浴を原則とし、状況に応じたシャワー浴や清拭での対応を行う等の具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全職員に渡し、各自が記入することにより日々のケアを振り返り、AEDの勉強会や毎朝下着を替えるなどの改善を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、隣接する小規模多機能居宅介護事業所と合同で2ヶ月ごとに開催し、入居者の状況や活動報告、外部評価の結果や改善状況などを報告し、意見交換を行っている。会議では、「虹の家新聞」には入居者の顔写真が載っており配布範囲を限定してほしいとの要望に対し、市と加入自治会の範囲に限定し配布することとしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に、日々の様子を伝えている。来られない家族や緊急時には、電話で連絡している。毎月発行している「虹の家新聞」では、外出や行事の状況等を報告している。玄関には苦情箱が設置され、外部の苦情受付窓口も掲示されている。また、毎月開催される家族会の催しや面会時に、管理者や職員が家族の意見や苦情を汲み取るよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や老人会に加入し、お祭りや清掃活動に参加すると共に、回覧板で毎月発行する「虹の家新聞」を回覧し、ホームの活動状況を知らせている。地域の人や家族と一緒に、ホームの花壇や菜園の手入れを行っている。また、近くの公会堂で、ホーム主催の介護教室を開催したり、公会堂で行う筋トレ教室に入居者と一緒に参加しホーム内で活用するなど、地域との交流を大切にした運営に取り組んでいる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは入居者様を第一に考え、安心して自分らしい生活を支援し守ると共に、地域との関わりを大切に開かれたグループホームを目指します。」の主理念とともに7項目の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送りには理念を唱和し、理念に添って入居者の希望を取り入れながら、家族や地域との絆を大切に施設の運営に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入し、お祭りや清掃活動に参加すると共に、回覧板で毎月発行する「虹の家新聞」を回覧し、ホームの活動状況を知らせている。地域の人や家族と一緒に、ホームの花壇や菜園の手入れを行っている。また、近くの公会堂で、ホーム主催の介護教室を開催したり、市主催の筋トレ教室に入居者と一緒に参加しホーム内で活用するなど、積極的に地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、日々のケアを振り返り、改善点を見いだせるように、職員一人ひとりがそれぞれ取り組んでいる。前回の外部評価による改善点については、評価結果を職員に配布し話し合いの場をつくり、運営理念の検討や入浴・避難訓練の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、隣接する小規模多機能居宅介護事業所と合同で2ヶ月ごとに行われ、地域から区長・区長代理・老人クラブ会長・民生委員の他、市の職員・運営者代表・家族会代表の出席のもと開催されている。入居者の状況報告や活動報告、外部評価の改善状況を報告し、意見交換を行っている。会議では、「虹の家新聞」の配布範囲について要望に対応する等サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、各種提出書類や毎月発行する「虹の家新聞」を持参し、職員の健康診断や、医療連携体制・介護度の件などについて相談し、助言や指導を頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に、日々の様子を伝えている。来られない家族には、電話で連絡している。また、毎月発行している「虹の家新聞」では、レクリエーションや外食、花見などの外出状況を報告している。預かり金は、出納帳のコピーにレシートを添付し、面会時や毎月の料金請求書に同封し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱が設置されており、外部の苦情受付窓口も掲示されている。また、毎月開催される家族会や面会時に、管理者や職員が、苦情や要望を聴取する機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設間の人事異動は行っていない。職員が長期勤務できるよう、個々の家庭環境や勤務希望に応じた勤務表を作成している。新規採用職員は、入居者や家族に紹介し、試用期間中にベテラン職員とマンツーマンの勤務体制をとり、職員の交替による入居者へのダメージを与えることがないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域リハビリ研究会の研修会や外部の新規採用職員研修、経験年数に応じた実践研修に参加している。研修報告書は供覧し、ホーム内で伝達講習会を行っている。また、有用な研修資料は、職員全員に配布している。資格取得を目指す職員には、必要な資料提供を行い、職員の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する介護事業者会議に出席したり、地域密着型サービス連絡協議会の会合や大会に参加して、情報の収集に努めている。また、地域密着型サービス連絡協議会での相互交流研修を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に家庭を訪問し、職歴や生活歴を聞き入居予定者の状況を把握すると共に、入居予定者や家族にホームを見学してもらい、入居者とお茶を飲んだり食事をしてコミュニケーションを図り、安心して入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、歴史や人生論・ことわざを聞いたり、料理や裁縫などを一緒にしている。また花の名前を教えて頂きながら、菜園や花壇で、運営者や区長、家族も参加して一緒に手入れを行い、畑仕事の好きな入居者も多いので、活き活きと生活する場を提供できるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族との情報交換の機会を多く持ち、要望を聞いている。また、日々のコミュニケーションの中で本人の思いや希望を把握し、気付いたことは書き留めて職員同士で話し合いを持ち、思いや意向を掘り起こして日々の生活の中に取り入れられるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当者がケアチェック表を作成し、毎月開催される職員会議で発表し、カンファレンスを持っている。また、本人・家族を含めた話し合いを持ち、希望を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しにとどまらず、急変時や入退院時には、運営者・家族・職員でカンファレンスを開き、転倒などのヒヤリハットの記録に基づいて話し合いを行い、原因は何かを確認し、家族の意向を聞き現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診は家族対応としているが、緊急時には職員が対応している。また、夜間緊急時には、ホームの協力医の対応が可能である。空室があれば、短期入居や体験利用の受け入れも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医への受診や往診、ホームの協力医への受診や往診など、本人や家族の希望する適切な医療が受けられるよう支援している。受診の結果は、その都度家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の対応にむけて、家族、協力医、看護師、職員で話し合い、医療連携体制加算を取得する準備を進めている。今後、重度化への対応を共有化するためのマニュアル作成を検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護計画など記録物は、事務室の棚に整理保管し、預かり金や保険証など貴重品は、鍵のかかるロッカーに保管している。「虹の家新聞」に掲載される名前や写真は、家族から同意を得ている。トイレ誘導などの言葉かけには、プライバシーを損ねることがないよう心がけ対応し、職員同士気づいた時は注意し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年間・月間・週間・一日の行事が、ホールに表示されている。しかし、これらの計画にとらわれることなく、レクリエーションの参加を無理強いせず、居室の整理をするなど、一人一人のペースに合わせ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	9人の入居者が、円形テーブルを囲み食事をしている。職員は、側の別のテーブルで、見守りをしながら入居者と同じ食事をしている。食後は、入居者が各々自分で下膳し、洗い物を拭くなど職員と一緒に後片付けをしている。	○	入居者と一緒に食事を楽しむ環境づくりを検討して頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、月・水・金の週3回とし、入居者全員が安全にゆっくりと入浴できるよう、職員を4人体制にしている。拒否する人は殆どいないが、ある場合には声かけをして無理なく入浴できるよう誘導したり、シャワー浴や清拭で対応している。また、毎朝下着を交換する等支援している。季節には、菖蒲湯やゆず湯などを行い楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や菜園の手入れを行ったり、清掃や洗濯物たたみは自分で行うなど一人ひとりの保持能力を活かし、楽しみながら役割を担っている。入居者が係りとなって、ホームで映画鑑賞が行われている。また、家族会によるエレクトーンの演奏会では、全員で合唱をするなど楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外出は、日常的に行われている。回覧板を届けに行ったり、区長さんに「虹の家新聞」を届けに行くなど、戸外に出る機会を多くしている。また、外食や買い物に出かけたり、経営母体の車を利用し、群馬の森や博物館・ららん藤岡等へドライブに出かけたり、家族同伴で日帰り温泉旅行を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関及び出入り口は、施錠されていない。見守りで対応し鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、災害時の避難訓練を行っている。事務室に消防署直通の通報システムを備えており、緊急マニュアルに従い職員は使用方法を共有している。緊急連絡網は、事務室と非常口に掲示している。非常口には、入居者の名前が貼られており、どの非常口から誰を非難させるかが明示されている。地域の応援態勢も区長の協力の下、連絡網を作成しているところである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は業者の献立、朝夕食はホームの献立で、食事の提供をしている。毎食の食事摂取量と一日の水分摂取量を、チェックし個人記録に記載している。食事摂取が困難な入居者には、医師と相談の上で栄養補助食品を利用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広々としており、玄関先には家族会で作られた花壇に季節の花が咲いている。ホールの高い天井は採光が良く、明るい。テレビの前にはソファが置かれたり、畳も配置され、冬にはこたつが置かれている。壁には、季節の鯉のぼりが飾られるなど、季節ごとに飾り付けを行い、生活感や季節感がある居心地よい空間にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、備えつけのロッカーが置かれ、また、使い慣れたタンスやサイドテーブルが持ち込まれている。壁には、若い頃の写真や家族の写真、緑化フェアーでの皇族の写真が飾られたり、観葉植物や人形なども置かれ、安心して居心地よく過ごせるよう配慮されている。		